

企画県土警察常任委員会資料

(平成21年6月25日)

- 1 関西広域連合(仮称)の検討について【政策企画総室】・・・・・・・・・・1ページ
- 2 中・高校生科学ゼミナールの開催について【青少年・文教課】・・・・・・・・5ページ

企 画 部

関西広域連合（仮称）の検討について

平成21年6月25日
政策企画総室

関西広域連合（仮称）の検討状況については、6月5日（金）開催の県議会全員協議会で説明したところですが、その後、関西広域機構事務局から別添資料が送付されてきましたので、その概要を報告します。

1 実施事務

関西広域連合（仮称）設立から概ね3年の間に取り組む実現可能な広域連携事業（第1フェーズの事務）について、その事務の概要が記述されている。

第1フェーズの事務については、「広域防災」、「広域観光・文化振興」、「広域産業振興」、「広域医療連携」、「広域環境保全」、「資格試験・免許等」及び「広域職員研修」の各分野が検討されているが、本県が当面想定している事務である「広域観光連携」及び「ドクターヘリ運航」に関する部分の内容は、次のとおり。

(1) 「広域観光・文化振興」分野

① 「関西観光・文化振興計画」の策定

関西を更に魅力ある観光圏としていくため、関西が一体となって主体性を持ち、創意工夫に基づく効果的な取組を推進する観光・文化圏振興ビジョン「関西観光・文化振興計画」を策定する。

② 観光広域ルートの設定

外国人観光客をさらに関西に呼び込むためには、各府県・政令市の利害を越えた戦略的な取組により、エリア全体の魅力の向上を図ることが不可欠であることから、関西をひとつのマーケットとして、日本にとって最良のインバウンド市場である東アジアや関西の伝統文化に関心の強い欧米をメインターゲットに、関西の魅力ある観光資源を有機的につなぐ観光ルートを設定し、関西広域機構とも連携して情報発信を行い、誘客を図る。

ア 観光資源の基礎データの収集整理（光の当たらなかった好素材の発掘）

イ テーマ別、対象別等ごとにルート設定

ウ 外客来訪促進計画としての「関西観光・文化振興計画」への反映

エ ホームページ等による情報発信

③ 海外観光プロモーションの実施

「関西」をさらに魅力ある観光圏としてアピールするため、各府県・政令市、関西広域機構や経済団体と密接に連携を図りながら、広域連合長自らがトップセールスを行うなど海外観光プロモーションを行う。

ア 広域連合長によるトップセールス・観光セミナー等の実施

イ 誘客増に資する戦略性のある「関西」イメージの形成

ウ ホームページ等による関西の観光資源の魅力の情報発信

- ④ 「関西地区地域限定通訳案内士（仮称）」の創設
訪日外国人観光客の視点に立ち、訪日外国人旅行者及び資格取得者の利便性向上を図るため、必要な法の改正や弾力的運用を国に求め、府県を越えた関西地区全般の案内が行える「地域限定通訳案内士」を創設する。
- ⑤ 「通訳案内士（全国）」の登録等
「関西地区地域限定通訳案内士（仮称）」と合わせ、通訳案内士（全国）についても各府県で個別に管理するのではなく、広域連合が一元的に管理することにより、効率的な登録事務及び運用を実施する。
- ⑥ 関西全域を対象とする観光統計調査
関西の観光地をさらに魅力あるものにするためには、関西圏内における地域間比較、傾向分析等に基づく効果的な施策の立案・実施が必要である。そのため、現在実施できていない統一的な基準・手法による観光統計調査を実施する。
- ⑦ 関西全域を対象とする観光案内表示の基準統一
各自治体等が独自に整備している観光案内表示について、訪日外国人観光客等の広域観光の利便性の向上のため、関西全体の統一かつ一体的な基準統一を実施する。
 - ア 各自治体等が行っている観光案内表示の情報収集、分析、把握
 - イ 関西全体の観光の利便性向上につながる観光案内表示の統一基準及び整備指針の策定・周知
 - ウ 統一された観光案内表示の導入促進
 - エ 統一基準・整備指針に基づき整備された案内表示のデータベース作成

(2) 「広域医療連携」分野

- ① 「関西広域救急医療連携計画」の策定
関西の府県域を越えた広域救急医療連携（ドクターヘリ等による広域救急医療連携）のさらなる充実に向け、「関西広域救急医療連携計画」を策定する。
- ② 広域的なドクターヘリの配置・運航
関西全体におけるドクターヘリの効果的・効率的な配置・運航などを行う。
 - ア 需要予測調査に基づく関西全体でのドクターヘリの最適配置・運航の検討
 - イ 広域的なドクターヘリの配置・運航
 - ・北近畿（京都府・兵庫県・鳥取県）におけるドクターヘリの運航（平成22年度～）
 - （注） 3府県では平成22年度からの共同運航を目指して検討を進めているところであるが、関西広域連合で取り組むかどうかについては検討中。

2 事務局体制

事務局体制として、設立当初は総務企画課及び事業課の2課体制とし、2年度目から組織体制を強化する方向性が記述されている。

3 財政

関西広域連合（仮称）の財政運営に係る「基本的考え方」、「予算案」及び「分賦金の算定の考え方」が記述されている。

(1) 基本的考え方

広域連合の運営に要する経費は、基本的に構成団体の分賦金によるものとする。ただし、他団体との連携により実施する事業については、当該団体との協議により経費の負担方法等を別途定める。

(2) 予算案

(単位：百万円)

分野別	平成21年度	平成22年度	
			備考
総務費 (うち人件費)	65 (43)	315 (250)	
広域防災費	1	9	
広域観光・文化振興費	6	18	
広域産業振興費	3	34	
広域医療連携費	1	173	ドクターヘリ運航経費は内数で170
広域環境保全費	5	43	
資格試験・免許等事業費	7	14	
広域職員研修費	1	2	
合計	88	607	

※ 平成21年度予算は、4箇月分（12～3月）を計上。

※ 事業分野ごとの必要経費を精査中（今後、大幅に変動する可能性がある）。

※ 分賦金は、各分野別の事業費に、分野別の人件費を加算して算定している。

(3) 分賦金の算定の考え方

分賦金の算定については、構成団体に同額を配分する均等部分及び各団体の受益に応じて人口、その他の客観的な指標に基づき按分する比例部分により算定する。

- ① 総務費は、人件費（事業に係る人件費を除く。）や事務所借上料、各種システム費用、光熱水費など、広域連合を維持するための基礎的経費であることから、全構成団体の均等負担を原則とする。

- ② 事業費（事業に係る人件費を含む。）の負担額は、各事業分野ごとの実施事務の受益に応じ、人口、事業所数、利用者数及び受験者数等の客観的な指標により算定する。ただし、特定の受益が発生しない段階においては、人口割等を基本とした共通ルールにより算定する。
- ③ 今後、実施事業の拡大に応じ、分賦金の算定方法を見直す。

4 鳥取県の対応

(1) 実施事務について

本県が関西広域連合（仮称）への参加を判断するメルクマールは、「県との二重行政にならないこと」、「費用対効果が大きいが期待されるものであること」、「本県にとって必要であると判断される事務であること」などと考えており、これらの視点を持って今回示された実施事務の内容を精査し、各分野の取組事業ごとの予算内訳の明示など、参加の可否を検討・判断できる内容を示すよう求めるとともに、今後更に検討を進めるに当たっては、県と二重行政にならないよう、また、できるだけ効率的な事務とするよう求める。

(2) 事務局体制及び財政について

予算案については、分野別予算の総額のみが示されているところであり、その積算、考え方等の説明を求めていく。併せて、事務局体制について、具体的な業務を根拠にして組織及び人数を検討するよう求めていく。

また、分賦金の算定の考え方のうち、総務費については、全構成団体の均等負担とすると、人口が最少であり、財政規模の小さい本県にとってはかなり割高な負担となることから、方針の再検討又は例外措置の検討を求めていく。また、事業費について、「各事業分野」ごとに算定することとされているが、「各事業分野」の一部の事務のみ参加の場合には当該参加割合に応じて分賦金を算定することとするよう、検討を求めていく。

その他、内容を精査し、本県の広域連合への参加について判断するために必要な意見を出していく。

(3) その他

上記(1)及び(2)のほか、一部の事務のみ参加の場合の広域連合議会の選出人数やその際の議決権の考え方など不明な事項について、その考え方を示すよう、併せて求めていく。

中・高校生科学ゼミナールの開催について

平成21年6月25日
青少年・文教課

1 事業の概要

(1) 目的

大学等と連携して、中学生及び高校生が、大学等の研究室や施設で、研究者から学校の授業とは違った先端的な科学知識及び科学技術を直接学ぶ科学ゼミナールを開催し、科学への関心と学習意欲を高める。

「とっとり人財育成プロジェクト教育特別予算枠」事業として本年度から実施。

予算額：2,000千円(単県・委託料)

(2) 実施方法

県が県内の高等教育機関(鳥取環境大学、鳥取大学、鳥取短期大学、米子工業高等専門学校)に科学ゼミナールの講座の企画及び開催を委託して実施する。

また、中学校、高等学校を通じて受講生を募集。

2 科学ゼミナールの内容

(1) 開催予定の講座数：21講座(中学生対象の講座13講座、高校生対象の講座8講座)

(2) 受講生数：1講座の受講定員は10名程度。

合計210名(中学生130名、高校生80名)を予定。

(3) 開催時期：学校の夏休み期間に開催予定。

(4) 科学ゼミナールの主な講座内容

開催校	講座名	開催日時	対象者	講座の内容
鳥取大学	液体窒素の実験を通して「物質の三態」を学ぼう!	8月7日(金) 13:00~17:00	中学生	液体窒素でアルコールを凍らせたり、酸素を液体にしたり、物質が3態変化(気体-固体-液体)する様子を観察する。
	DNAを見てみよう!	8月5日(水) 10:00~16:00	中学生 高校生	実際に植物からDNAを抽出し、DNAを大きさで分離したり、DNAを観察したりして、DNAについて学習する。
	食品に含まれる抗酸化物質の働きを調べよう!	8月21日(金) 10:00~16:00	高校生	「活性酸素」に対抗する「抗酸化物質」の働きについて、実際に、食品に含まれる抗酸化物質を抽出し、その抗酸化活性を調べる。
鳥取環境大学	プログラムを駆使してマイコンカーを走らせよう!	8月1日(土) 9:30~15:30	中学生 高校生	マイコンカーを製作し、コンピューターでマイコンカーを作動させるソフトをプログラミングして走らせる
鳥取短期大学	ペーパークラフトで現代の名建築をつくってみよう!	8月18日(火) 10:30~15:00	高校生	「折り紙建築」(東京工業大学の茶谷正洋教授が考案した、紙を使った立体的な表現手法)で、伝統的建築物やユニークな建築物をペーパークラフトで造る。
米子高専	スターリングエンジン自動車を作ろう!	7月24日(金) 10:00~15:00	中学生	環境にやさしいエンジン「スターリングエンジン」の自動車を製作し、エンジンのメカニズムについて学ぶ。
	コンピューターロボットを作ろう!	7月24日(金) 10:00~15:00	中学生	光センサーやタッチセンサーを使いオリジナルのロボットを製作し、プログラムを組んで実際にロボットを動かす。

(5) 今後のスケジュール

受講生の募集 6月18日(木)~7月7日(火)

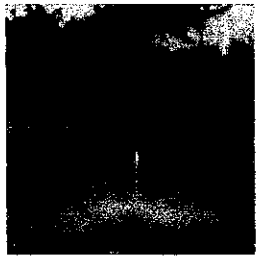
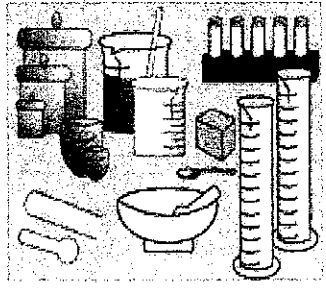
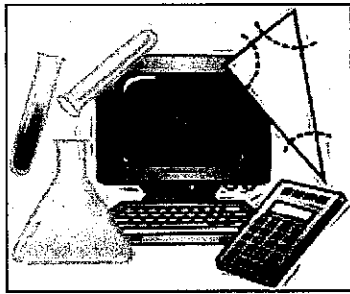
科学ゼミナールの開催 7月24日~8月21日の間に随時開催予定。

中学生・高校生の皆さん 科学を体験しよう



「中・高校生科学ゼミナール」 受講生募集のご案内 (募集期間：2009年(平成21年)6月18日～7月7日)

この夏、県内の中学生、高校生を対象に、鳥取環境大学、鳥取大学、鳥取短期大学、米子工業高等専門学校の実験室や施設で、日頃の授業とは違った先進的な科学知識や技術を体験しながら楽しく学べる「科学ゼミナール」(科学教室)を開催します。
科学に興味のある生徒は、この機会に科学の面白さをぜひ体験してください。



< 切り取り線 >

「中・高校生科学ゼミナール」受講申込書

学校名				学年	
フリガナ				住所	
氏名				(市町村名)	
連絡先電話番号					
受講を希望する科学ゼミナールの講座	< 別紙の「平成21年度 中・高校生科学ゼミナール講座メニュー」の申込み番号を記入してください。 >				
	申込み番号	鳥取短期大学または米子工業高等専門学校を希望する場合の無料送迎バスの利用希望(どちらかに○してください)	申込み番号1(中学生)または申込み番号15(高校生)を希望する場合のパソコンの持参の有無(どちらかに○してください)		
	第1希望	利用する ・ 利用しない	持ってくる ・ 持ってこない		
	第2希望	利用する ・ 利用しない	持ってくる ・ 持ってこない		
※ 受講希望者数が講座の受講定員数を超えた場合は、事務局で受講する講座を調整をしますので、御承知ください。					
<p>【応募資格】 鳥取県内在住の中学生・高校生 【募集期間】 2009年(平成21年)6月18日(木)～7月7日(火) 【受講料】 無料(ただし、会場までの交通費、昼食代、傷害保険加入金は本人負担) 【その他】 ①生徒は、受講決定後に傷害保険加入金360円を学校の先生に提出してください。 ②全体の応募者数が全受講定員数を超える場合は、事務局で抽選させていただきますので、御承知ください。</p>					



鳥取県企画部青少年・文教課
担当者 谷口、吉野

<TEL 0857-26-7814・7815>
<FAX 0857-26-8110>